



平成30年10月15日 第814号

一般財団法人日本遺族会 千代田区千代田一丁目六番一七号 九段南一丁目六番三三番 千代田会館三階 電話 03-3261-5521 03-3261-2539 03-3261-1515 1部 1部130円(税込) 定価

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰霊救済の道を共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

31年度 次年度の概算要求 一致結束して運動を展開

財務省は九月七日、各省庁が提出した平成三十一年度政府予算の概算要求総額を発表した。一般会計の総額は百一兆七千六百五十八億円となり、五年連続で百兆円を超え、これまで過去最大だった平成二十八年年度要求額を上回った。本会関係では、遺骨収集事業等の推進費増額など本会の要望事項がほぼ盛り込まれた。

財務省は、八月末に提を百一兆七千六百五十八億円で発表された。国への財政のあり方について議論する財政制度審議会(財務相の諮問機関)も九月七日に開かれ、平成三十一年度予算編成に向けた議論を本格的にスタートさせた。

平成31年度 遺族処遇改善項目 平成30年8月31日概算要求

総給費	2,017億円
厚生労働省関係(総給に関連する遺族年金等を除く)	
1 遺族年金	77億1,800万円
2 遺骨収集事業等の推進	24億4,400万円
(1) 統廃合遺骨収集事業	13億7,200万円
(2) 南方・旧ソ連地域遺骨収集事業	7億6,000万円
・現地調査実施地域(8地域)	(3億1,000万円)
・遺骨収集実施地域(19地域)	(3億3,200万円)
・法人運営経費	(1億2,700万円)
(3) 海外公文書等の資料収集	4,700万円
(4) 遺骨の鑑定	1億9,300万円
(5) 遺骨・遺留品伝達	3,300万円
うち、遺留品調査の迅速化に係る経費	(1,300万円)
3 戦没者慰霊事業等	5億9,400万円
(1) 全国戦没者追悼式挙行経費	1億5,100万円
(2) 慰霊巡拝等	4億4,300万円
・慰霊巡拝実施地域(12地域)	(1億円)
・政府建立慰霊碑の維持等	(6,200万円)
・海外・国内民間慰霊碑の管理	(2,200万円)
・戦没者遺児による慰霊友好親善事業(広域地域14地域 特定地域3地域)	(2億5,900万円)
4 昭和館事業	5億2,000万円

※百万円単位で四捨五入している。

本会関係では、遺骨収集事業等の推進強化経費が本年度予算額に対し二千四百百万円増額され、特に南方・旧ソ連地域の遺骨収集を現地調査費用等が増額されている。また、政府主催の戦跡慰霊巡拝費が千三百万円増額要求され、昭和館事業経費では、戦後世代の語り部養成費が七百万円を要求するなど、戦没者遺族の処遇改善等に関する本会の要望事項が概ね盛り込まれた。

しかし、財務省は年末の予算編成に向けて各省庁の要求を厳しく査定する方針を示している。各

取り組むべき課題

九月から十月にかけて、各ブロック会議が相次いで開催された。本会からは水落敬栄会長、宇田川健雄、市来健之助の西副会長らが手分けして出席した。また各道府県遺族会から正副会長、女性部長等の役員、青年部及び事務局長らが出席して、遺族会が抱える諸問題等真剣な議論が交わされた。

会議は、昨上和男専務理事から中央情勢の説明があり、各ブロック会議では道府県遺族会が抱える問題点について議論された。特に高齢化が進む遺族会において、組織の任継、財政問題や青年部の育



第4ブロック会議で挨拶する水落敬栄本会会長=10月4日、香川県で

省庁に対しては、予算圧迫を迫るなど予算折衝で例年以上に厳しい攻防戦が繰り広げられることが予想されている。このため、本会では各支部に対し、要望事項の実現に向けてそれぞれの地元における取り組みとして、「地元系出自民党所属国会議員」等に面会し、戦没者遺族の処遇改善に関する本会の要望に理解と協力を求めることと、概算要求が平成三十一年度政府予算に計上されるよう、全国の戦没者遺族が一致結束して運動を展開していく。

※本会が要望した平成三十一年度遺族処遇改善項目における概算要求額は別表のとおり。

先日の戦争の終戦から73回目の夏、平成最後の夏、この夏にもたらされた自然災害の猛威は、秋の夜長に虫の音を奏し、季節になったその驚異は留まる所を知らず、海水温の高さはここぞとばかりに台風を量産してくり、いかにけんしるゝと怒りの先をどこに向けているのかが戸惑っている。そんな中この節目の年にある若者の記事に目が止まった。生徒出陣した同世代への思いである。武器を手に戦い、戦火に倒れた生徒の手記には、死への覚悟や家族への思いのほか「もう一度大学で学びたい」という願いが綴られていたという。同い年の人と同じ大学の先輩も大勢いたことに驚き、悲しい気持ちになったが、しかし前線に戦っていた人達が「生きていたい」と人間的な純粋な感情を持っていたことに安心感も覚えたという。戦争は命だけでなく、個性・希望・夢、思い等全てを奪ってしまいう残骸なの。これらの声にも耳を傾けねばなるまい。かの村や水きよらかに日さしく陳開児童にむききんぐの句には親元をはなれて田舎で集団生活を余儀なくされた描写がある。淋しさに加え戦争中の集団疎開の現実にはこんな思いをしる子供達もあつたのかも知れない。受け入れ側にも事情がある。あの戦火の時代から73年の時が流れた。生徒や陳開児童のことも伝えねばなるまい。(A)

声

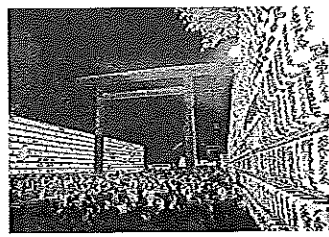
先日の戦争の終戦から73回目の夏、平成最後の夏、この夏にもたらされた自然災害の猛威は、秋の夜長に虫の音を奏し、季節になったその驚異は留まる所を知らず、海水温の高さはここぞとばかりに台風を量産してくり、いかにけんしるゝと怒りの先をどこに向けているのかが戸惑っている。そんな中この節目の年にある若者の記事に目が止まった。生徒出陣した同世代への思いである。武器を手に戦い、戦火に倒れた生徒の手記には、死への覚悟や家族への思いのほか「もう一度大学で学びたい」という願いが綴られていたという。同い年の人と同じ大学の先輩も大勢いたことに驚き、悲しい気持ちになったが、しかし前線に戦っていた人達が「生きていたい」と人間的な純粋な感情を持っていたことに安心感も覚えたという。戦争は命だけでなく、個性・希望・夢、思い等全てを奪ってしまいう残骸なの。これらの声にも耳を傾けねばなるまい。かの村や水きよらかに日さしく陳開児童にむききんぐの句には親元をはなれて田舎で集団生活を余儀なくされた描写がある。淋しさに加え戦争中の集団疎開の現実にはこんな思いをしる子供達もあつたのかも知れない。受け入れ側にも事情がある。あの戦火の時代から73年の時が流れた。生徒や陳開児童のことも伝えねばなるまい。(A)

平成三十一年版 靖国カレンダーを 家庭にかけましょう

申し込み方法 維持会費 一口五〇〇円(送料別途)を添えて

① 送付先 靖国カレンダー 業務室 〒100-0073 東京都千代田区九段北三丁目一丁目 靖国神社遊就館内 電話 03-3133-6441 FAX 03-3133-2611-7415 E-mail: jkai@kokusenai.com のいずれか

② 別途申込書で、お住まいの「英霊」にこたえる会都道府県本部一宛。郵数は、一部(口)から取り扱っておりません。送料は、前記「都道府県本部」または「靖国カレンダー業務室」にお問い合わせ下さい。



期間中約20万人の人数で賑わった平成29年 靖国神社みたままつり(毎年7月13日~16日)

英霊の御心を 次の世代に伝えましょう

「台風21号」および「北海道胆振東部地震」により 被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます

一般財団法人 日本遺族会

一般財団法人 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、英皇陛下や遺族支援など様々な活動のために賛助金を募っております。本会は、これまで英皇陛下並びに戦没者遺族の福祉増進をはかるため、日々活動を行ってまいりましたが、東日本大震災により収益部門であった九段会館が閉鎖したことに伴い、現在、恩賜友好奨励事業をはじめ遺骨収集推進等各種事業の継続が大変厳しい状況にあります。本会といたしましては、各種事業を行うにあたり、今後とも努力していくことは勿論のことですが、戦没者遺族並びに本紙ご購読者、本会の諸事業にご賛同される皆様方より一層のご支援・ご協力を仰がなければなりません。本会の活動の趣旨にご理解を賜り、何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。大変恐縮ですが、ご賛同いただいた方の氏名を本紙に掲載し、お礼に代えさせていただきます。

賛助金のお振込みは

●郵便振替 00130-2-694929
●みずほ銀行 九段支店 普通預金 0980930

口座名はいずれも「一般財団法人日本遺族会：ザイニホンイソクカイ」

※賛助金につきましては、誠に勝手ではございますが、お一人様1万円程度からお願いしております。

※ご不明な点は本会事務局(電話03-3261-5521)までお問い合わせ願います。

旧ソ連で31柱を収容

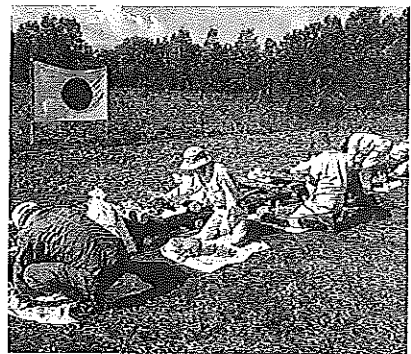
ハバロフスク・ゴリン村で

JARRWC

日本戦没者遺骨収集推進協会(丁ARRWC)は、旧ソ連留中死亡者遺骨収集推進ハバロフスク地方第二次を八月二十七日から九月十二日までの十七日間実施した。本会からは四人が派遣協力し、全国留中者協会、JYMA日本青年遺骨収集団、国際ボランティア学生協会からの参加団員とともに、埋葬地の遺骨収容に従事し、三十一柱を収容した。

ハバロフスク地方第二 次遺骨収集推進協会は、ハバロフスクから列車でコムソモリスクへ移動し、八月三十日、車でソールネチヌイに到着した。派遣団は八月三十一日から九月八日までソールネチヌイ地区ゴリン村に滞在し、記録には三十三

人の日本人留中死亡者遺骨が埋葬されている第四九二三野病ゴリン居住地墓地及び第五収容所第四九二三野病墓地で遺骨収集を実施した。収容期間中は、天候不順で作業を中断することもあり、長時間にわたる

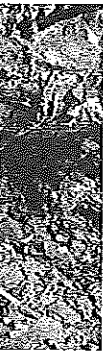


焼骨式の準備をする団員=9月8日、ソールネチヌイ地区ゴリン村で

未送還遺骨情報収集を実施

硫黄島・南方三地域で調査

日本遺族会は、日本戦没者遺骨収集推進協会(丁ARRWC)が実施している海外に未送還遺骨に関する情報収集を行う現地調査及び



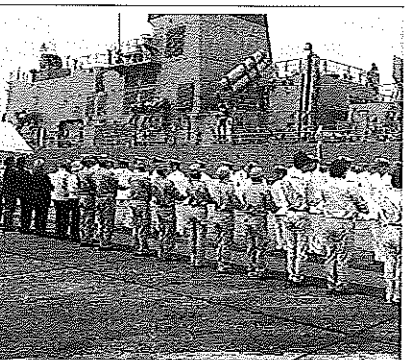
洞窟付近で遺骨を捜索する団員=8月28日、サイパン島パンザイクリフで

び硫黄島の掘削立会調査に派遣協力しており、今回マリアナ諸島、東部ニューギニア、硫黄島に本会から各調査に一人、ビスマーク・ソロモン諸島に三人を派遣した。

マリアナ諸島には、八月十九日から三十日の期間で派遣協力し、関係行致機関等と協議を重ねて掘削の許可を得て、サイパン島の模倣谷、パンザイクリフ、マツビ等で洞窟内等を調査した結果、五十四柱(推定)の遺骨を収容した。

東部ニューギニアでは、八月二十五日から九月十二日の期間で東セ

ビスマーク・ソロモン諸島では、九月十四日から三十日の期間でソロモン諸島ガダルカナル島に派遣し、丸山道調査班、アンドウ村調査班、広報活動班の三班に分かれ行動し、四十七柱(推定)の遺骨を収容した。また、遺骨した掘削調査に立ち会った。



海上自衛隊護衛艦「さざなみ」の前での遺骨引渡式=9月25日、ガダルカナル島ホニアラ港で

護衛艦「さざなみ」ソロモン諸島より送還

推進協会(丁ARRWC)は、ビスマーク・ソロモン諸島戦没者遺骨収集派遣(第二次)を九月十九日から三十日の期間でソロモン諸島ガダルカナル島において実施し、本会からは三人を派遣協力した。

派遣団は、平成二十九年度及び三十年度の現地調査派遣で収容した遺骨を確認し、日本から同行して焼骨式及び追悼式を執

第一回特別委員会を開催

約一年半をかけて協議

日本遺族会は、二月十二日開催の第十四回理事会において、「今後の遺族会を考える特別委員会」の設置を決め、その第一回特別委員会が九月五日、開催された。

特別委員会で検討する事項等について協議がなされ、特に、高齢化著しい遺族会の現状把握の必要性から、支部の業務調査を行うことと決められた。今後、約一年半程度か

けて協議を重ね、水俣会長に報告書を取りまとめ提出する予定となっている。

委員(順不同) ○委員長 宇田川勉雄氏、副委員長 市来健二助氏、委員 村上和男氏(専務理事)、水澤庄一郎氏、狩野安氏、山田大氏、國政隆昭氏、石井順二郎氏(公益事務理事)、三浦野子氏(常務理事、女性部長、

安倍晋三内閣総理大臣は十月二日、内閣改造を行い、第四次安倍改造内閣を発足させた。今回の内閣改造は、外交経路で東進を支持し「政壇の土台の維持」と来年夏の参院選の勝利に向けた党内一致の両立を目指している。閣僚十九人のうち、安倍内閣で最多とな

和館館長、八神教雄氏(厚生労働省大臣官房審議官、援護指三)の以上十三人

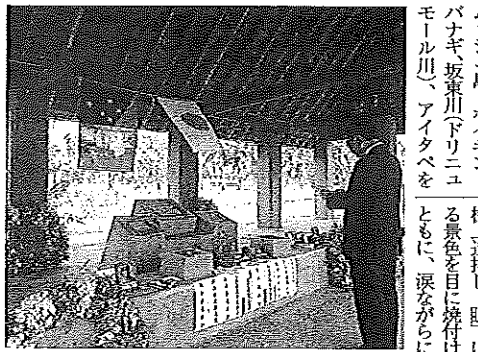
第四次安倍改造内閣発足

安倍晋三内閣総理大臣は十月二日、内閣改造を行い、第四次安倍改造内閣を発足させた。今回の内閣改造は、外交経路で東進を支持し「政壇の土台の維持」と来年夏の参院選の勝利に向けた党内一致の両立を目指している。閣僚十九人のうち、安倍内閣で最多とな

好問 三地域相次いで実施 友訪 亡き父たちに語りかける 靈善 慰親

日本遺族会では九月、戦没者遺児による慰霊友好親善事業の東部ニューギニア、ビスマーク諸島、西部ニューギニア地域を実施した。三地域に総勢三十六人の遺児が参加し、水年の念願であった父の眠る地において、父と語りうと共に慰霊の誠を尽くした。また、各地で小学校や病院を訪問し、学用品や車椅子を寄贈するなど友好親善も行った。

東部ニューギニア
水落敏栄本会会長を総括団長とする東部ニューギニア慰霊友好親善訪問団(団員十一人)は、九月五日靖国会館に集合し、スマーク諸島訪問団とともに結団式を行い、同夜成田空港を出発し、チエウ出で父の眠る東部ニューギニアに向かった。翌朝六日、バプアニューギニアの首都ポートモレスビーに到着。一行は飛行機を乗り換え、エロタウ(ラビ)へ移動し、最初の慰霊祭を第二飛行機で行った。



全戦没者追悼式で追悼の辞を述べる水落敏栄総括団長(本会会長) = 9月10日、ウエワクで

ムツシユ島、ポイキン、機上選擇し、眼下に見え、バナギ、坂東川(下リ)ニューモール川、アイタペをともに、涙ながらに手を合わせ、亡き父を偲んだ。同日午後、「ニューギニア戦没者の碑」において全戦没者追悼式を厳粛に挙行し、「英霊に哀悼と感謝の誠を捧げた。」

同日一行は、七十年余の積年の思いを胸にチャーター機で最初の訪問地、ニューブリテン島のホスキンスに向けて出発した。亡き父上の戦没地であるコウ上空を旋回し、ホスキンスに到着した一行は、空港近くの海岸で慰霊祭を行い、亡き父たちの冥福を祈った。

午後、再びチャーター機で次の訪問地、ブカ島へ向かう。同島着後、機上選擇し、雨の中を陸路、ブーゲンビル島のトクオ、マイカ、エレベント、ブイン、ルイセイ、アイダラ、ミイロン、マワレカ、タロキナ、タボバナツ上空を選擇し、亡き父を偲ぶ。翌七日にはブーゲンビル島のヌママで慰霊祭を行い、積年の思いを偲ながらに語りかける。八日、ニューブリテン島のラバウル(ココボ)へ移動。九日、旧ラバウル海で慰霊祭を行い、散華された英霊の冥福を祈った。

伊藤草苗本会幹事員を団長とする西部ニューギニア慰霊友好親善訪問団は九月十四日、清見代表十二人が東京・靖国会館に集合し、結団式を行い、前泊の羽田空港付近の宿舎に移動。翌十五日羽田空港を出発した一行はインドネシアの首都ジャカルタに到着した。十六日早朝、同地を出発し、マカッサル海岸で慰霊祭を行った。

十九日、ピアク島に移動し、西瀾湖の戦没日本人慰霊碑及び同島北部のコリム湾口で亡き父たちへ積年の思いを語りかけ、懇ろに祈った。翌二十日、パライの日本政府建立「第二次世界大戦慰霊碑」で全戦没者追悼式を挙げて哀悼の誠を捧げた。同夜には現地小学校教師、児童を招いて懇談会を開催し、交流を深めるなど、所期の目的を果たした一行は、二十三日帰国途の途についた。



懇談会に小学校の児童を招いて交流を深める = 9月20日、ピアク島で

慰霊友好親善事業

募集要項は次のとおり
▼時期及び地域 実施
▼参加費 10万円
※東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集会場所まで及び解散場所からの交通機関はご自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続手

参加者募集

教料等は個人負担となる
▼参加資格 戦没者の遺児。平成二十九年産度加者を除き、複数回の応募が出来る。
▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。
参加者の資格審査に当たり、申込書の記入項目の全てに記入を要するの

実施概要

実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1 台湾・パシール海峽	平成31年1月18日~1月24日	30人	11月16日
2 マーシャル・ギルバート諸島	平成31年3月9日~3月17日	40人	11月9日
3 フィリピン(2次)	平成31年3月13日~3月20日	120人	1月11日
4 中国	平成31年3月22日~3月30日	80人	1月22日

(特定地域)

実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1 西部ニューギニア	平成31年2月4日~2月13日	36人	12月4日
2 東部ニューギニア	平成31年2月13日~2月20日	36人	12月13日
3 ミャンマー	平成31年2月26日~3月6日	36人	12月21日

本会への賛助金のお礼

本紙(二面)でもお願

野悦子、吉田茂、富田青子、木内みはる、伊藤輝子、石田義久、田中邦友、鈴木純、千葉政吉、筑紫鈴枝(以上、九月一日から九月末日まで)

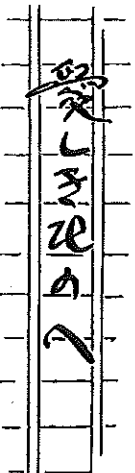
皆様からいただきました。本会が実施する各種慰霊事業などの活動費用に利用させていただきます。誠にありがとうございました。

本会事業参加者の皆様へ
本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(個人情報保護法)の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

米国オレゴン州訪問 OBONソサエティと協議

日本遺族会が平成三十年度より厚生労働省から委託を受け実施している「戦没者遺留品の返還に伴う調査」事業として、九月六日から十日の期間で昨上専務理事(他事務局一人)はアメリカのオレゴン州を訪問し、本事業の協力団体であるOBONソサエティの活動状況を確認するとともに今後の業務の進め方等について協議した。

九月六日にオレゴン州ポートランド市内の会議室でOBONソサエティ一行は、OBONソサエティを支援している有識者との会合に出席し、OBONソサエティの活動の重要性等について意見を交換した。会合後、OBONソサエティを支援するオレゴン歴史博物館、民間団体等を視察した後、OBONソサエティの本部があるアストリアへ移動した。



入営に際して父母様へ

陸軍技術兵長 中根 秀夫

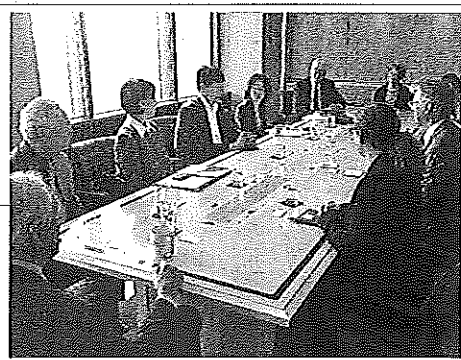
昭和二十一年六月十八日
朝鮮岳及山にて戦病死
愛知県豊橋市大字梅坪出身 二十三歳

生まれてこの所に二十五年の歳月、父母様にはいろいろと心配をかけた。今後は、ただ父母様の日頃のご教訓を守り、忠告の一念に燃え、父母様のご苦労の万が一なりとも報ゆる覚悟でございますから、ご安心ください。また我々兄弟三人が、目出度く親族の日をお守りください。今後、戦後は益々ご多忙であります、身体に充分注意され、日々ご健在でお暮しくください。終わりに父母様の健康をお祈り致します。

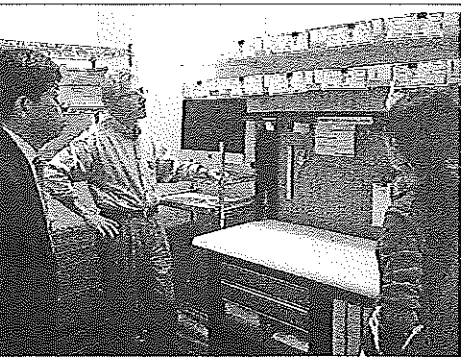
昭和二十一年一月二十七日

父母様へ

(原文のまま)
平成三十年十月靖国神社願掛け
愛しき母へ



OBONソサエティを支援する有識者との会合
=9月6日、ポートランドで



アーカイブセンターで遺留品の返還手続きを確認する
昨上専務理事=9月8日、アストリアで

九段短歌

選者 安元 百寿子

「里の秋」歌の真実聞かされて平和の今をあらためて知る。ささやかな喜びが思ひなり歌じる「みたま祭り」の灯に足らふ。白濁を手に持ち進む中学生世代をつなぐ慰霊のまなざし。大方は戦死とふ南の鳥背く兵は永久にこにて眠る。戦死せし父の位階葬列にしかと持ちたり五つのはれは。父の顔知られぬ吾に父ありと軍服の写真に父上と呼ぶ。五段から戦争遺児の境遇はがまん我儘の七十年余。

鳥積市 松尾美津子
甲州市 三森 一雄
佐世保市 田中 暁
富士吉田市 菅沼 勝由
重富市 藤田 寛
青森県 田中 恭子
長野市 齋藤 由明

今月は様々な視点の歌が届けました。「里の秋」は昭和十六年に戦地の父への慰問文として作られ、題名は「星月夜」で曲はなかつたそうです。一番と一番の歌詞は現在と同じですが、戦争が拡大した頃、三番は「櫻子の鳥 武運を祈る」四番は「一隊となり国を譲る」という内容に変わりました。終戦後NHKラジオで放送するに当り、題名を「里の秋」三番の歌詞を「さよなら さよなら 櫻子の鳥」と変えたそうです。まさに歌に歴史があります。戦後の遺児の生活の悲しさ、苦しさ、悔しさに憤りを覚えました。(選者)

名倉屋市 小坂 れい
京都府 阿部 晋
千葉市 石橋 寿子
千原市 相馬 寛子
相馬市 柴田 征子

▼高知県 9月9日
高知県遺族会創立70周年記念遺族大会、青年部結成式(300人)
▼北海道 9月18日
全道女性部研修会(129人)
▼福島県 9月19日
平成30年度小山忠堂慰霊祭(450人)
▼愛知県 9月20日
愛知県遺族連合会発表会(120人)
▼山梨県 9月26日
県下戦没者遺族大会(680人)
▼岩手県 9月30日
女性部・青年部合同研修会(90人)

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。戦没者の英霊顕彰(遺骨帰還、慰霊友好、慰霊巡拝)、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。次世代を担う青年部(孫・ひ孫)の皆様も是非お申し込みを。

年間購読料/1,560円(1年間 12回 税金・送料込)
お申込み→日本遺族会事務局 ☎03-3261-5521
FAX03-3261-9191